

祝・卒業 三年生和菓子渡し

令和六年 三月

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

お菓子の歴史は古く、初めは果物がお菓子でした。稲作が始まると米の粉で団子や餅が作られ、お茶の普及とともに工夫が凝らされ、江戸時代に京菓子として発展しました。

洛北中学校では二年生の終わりに、新しい和菓子のデザインを考え、企画書を作成しました。そして今回、学年で十人の作品を田井弥本舗さんに選んでいただき、四季の和菓子として創っていただきました。

原作者は、次の人たちです。十作のうち二つが彩りを考えて入っています。

目でも味わって、和菓子制作の記念に、ご家族でお祝いください。

和菓子の醍醐味は、暦(二十四節気)に合せて季節を先取りし、やがて咲く花や年行事に思いを馳せながら、心待ちに食すところにあります。今回の制作では、卒業記念として春を待つ卒業式前に、四季の作品として違う季節のものもありますが、本物の和菓子を持ち帰ってもらいます。また、その後も好評でしたら、田井弥本舗さんにご連絡いただければ、今後の店頭販売を考えいただけます。

洛北中学校美術科では、生活の中の美術の役割を実感できる、社会に目を向けた課題に取り組んできました。

「京菓子を創る／京都ならではの伝統文化学習から新作和菓子開発、地域店舗販売へ」では、京菓子の歴史を学び、和菓子に銘を打つあり方を知った後、その経験を基に新作和菓子の企画書を描きました。

商品として社会に通用する和菓子を生み出すはどういうことなのか、考えの深さが試されました。京都らしさ・洛北らしさや、季節の表現と銘のつけ方、材料の整合性やコスト、製造個数や工程など、夢を描いて制作したものが商品になつたときにはどう変化したのかも学び取つてもらえれば幸いです。

洛北中学校では、これからも地域を活性化させる授業を創造していきます。
あなたの卒業する母校が、末永く繁栄することを祈念して……。



銘「新たな年」

「睦月」・初日の出

形にこめた思い

「今年もよい年になるように
初日の出に思いを込めた。」

色にこめた思い

「新しい目標や願いをもえる
ように成しとげる。」



銘「嵐山」

「睦月」・正月

形にこめた思い

「嵐山の竹をイメージした。」

色にこめた思い

「竹のきれいな緑色から
友だちを大切にしてほしい
という願いを込めた。」



銘「白い霜」

「小寒」・霜が降りるころ

形にこめた思い

「『やまたちばな』に霜がかか
っているような形にした。」

色にこめた思い

「中のもちを黄色にし、本物に
近づけた。全体に霜がかかって
いる様子を表すために赤色で
はなく桃色にしました。」



銘「小春景色」

「雨水」・雪どけ

形にこめた思い

「雪から春の優しい色が
のぞいているイメージ。」

色にこめた思い

「寒い冬から春の花や草木、
日の光に変化していく様子
を想像できるよう考えた。」



銘「そして春来る」

「啓蟄」・芽生え

形にこめた思い

「雪がとけてきて植物の新芽
と冬ごもりしていた虫がでて
きた様子を表現した。」

色にこめた思い

「冬の間ずっと我慢していた生き
物の喜びをイメージした。」



銘「比叡山(わたしたち)の風」

「立夏」・散歩

形にこめた思い

「比叡山から吹く風と葉を
シンボルにした。」

色にこめた思い

「比叡山の緑がしげていること
を、白でさわやかで美しい風を
表現し、目立たせた。」



銘「苔清水」

「水無月」・梅雨入り

形にこめた思い

「きんとんで瑞々しい苔の感じを表現し、
寒天で苔についている水滴を表現した。」

色にこめた思い

「梅雨の時期の瑞々しい緑色と、
透明な寒天で表した水滴で、
水の美しさを出した。青もみじ
をワンポイントにした。」



銘「大波」

「小暑」・七夕

形にこめた思い

「美しく、そして強そうな波を
イメージした。」

色にこめた思い

「波の色の深みを、淡く、渋く
表現した。」



銘「水面の月」

「長月」・お月見

形にこめた思い

「宝ヶ池をイメージし、その中に
月を包むようにして、水面の月が
映っているようにした。また、
金箔で星をイメージした。」

色にこめた思い

「群青色で水面の深い青をイメ
ージした。白色は月で、京菓子
の特徴である薄い色を入れた。」



銘「玉入れ」

「神無月」・体育祭

形にこめた思い

「体育祭の玉入れをイメージし、
赤・緑・黄の玉がカゴの中に
ある様子を和菓子にした。」

色にこめた思い

「赤組、緑組、黄組の玉を表した。」